

新技術・新製品特集号の発刊にあたって

代表取締役副社長 齋 藤 保

IHI 技報「新技術・新製品特集号」の発刊にあたり、ご挨拶申し上げます。

2011 年、不幸にも発生した東北地方太平洋沖地震と、それを発端とした福島原子力発電所の事故以来、国内外でエネルギー・資源・地球環境問題が一層活発に議論されています。また同じく 2011 年中国温州市で発生した高速鉄道の衝突・脱線事故、タイやミャンマーを中心に見舞われた大洪水などによって、国民・社会の安全と安心を守ることの重要性がますます高まっています。IHI グループは「21 世紀の環境、エネルギー、産業・社会基盤における諸問題を、ものづくり技術を中核とするエンジニアリング力によって解決し、地球と人類に豊かさと安全・安心を提供するグローバルな企業グループとなる」ことを目指す姿に掲げて、これらの諸問題に正面から取り組んでいます。



IHI 技報は毎年の第 1 号を新技術・新製品特集としており、今回も IHI グループの最新の技術・製品をご紹介します。

巻頭では、研究開発部門の一つである技術開発本部総合開発センターの取組みと、知力や積み重ねたものこそ資産といった観点の記事「見えない資産」を掲載しております。

IHI グループの技術・製品をより身近に感じていただくために巻の前半には、バイオマス発電の発展を支えていく「林業機械」、バイオマス燃料や従来使われてこなかった褐炭などをさまざまなエネルギー源や化学原料に変換できる「二塔式ガス化炉 TIGAR®」、石炭火力発電所から排出される CO₂ を回収するための「酸素燃焼」と「化学吸収」の各技術、および藻類から燃料を取り出す「バイオ燃料」技術についての記事を掲載しました。これらは「資源・エネルギー」を事業領域の一つに掲げる IHI グループの最新の取組みです。

他にも、食品工場の製造ラインでラベルの異常を検出して食の安全を見守る「ラベル外観検査装置」、従来、人の手でしかできなかった機械装置の組立てを可能にした「次世代産業ロボット」の開発なども、記事でご紹介しております。

巻の後半には、伝統的な論文として、上述の二塔式ガス化炉 TIGAR®, 低燃費で環境負荷低減を目指す次世代の電動化航空エンジン技術、光を使って非破壊でコンクリート構造物の安全を診断するシステム、およびレーザーを使い高速道路の補修にも使える新しい溶接技術を掲載しました。これらはいずれも「地球と人類に豊かさと安全・安心を提供する」新技術・新製品です。

IHI グループは技術をもって社会の発展に貢献します。そして社会の変化するニーズに迅速に対応するためには、これまでの保有技術を高度化するだけでなく、いろいろな技術を融合する取組みが必要です。この新技術・新製品特集号でその一端を感じ取りいただければ幸甚に存じます。